

トヨタガズーレーシングフェスティバル キッズ記者体験

11月27日に、富士スピードウェイで行われた、トヨタガズーレーシングフェスティバルの「キッズ記者体験」に参加しました。

まず、ENEOS SUSTINA SC430でスーパーGTに参戦している、チームル・マンのピットを見学しました。

そこではメカニックさんたちが、質問に答えてくれました。

Q・もし、クラッシュして車が壊れてしまった場合、修理はどのようにしますか？
また、どのくらいの値段がかかりますか？

A・交換したほうが速いときには、TRD(トヨタレーシングデベロップメント。スーパーGT用のSC430を開発しているところ。)からパーツを買います。直したほうが速いときには、メカニックみんなで直します。値段ですか…。えーっと、右のフェンダー(写真)が壊れてしまった場合には、だいたい500万円～1000万円くらいですかね。

Q・このレーシングカーを1台作るのにいくらぐらいかかりますか？

A・また値段ですか…。えっと、このボディが、カーボンファイバーという軽くて強い素材を使っています。素材もあって、だいたい4億円くらいですかね。

この2つの質問だけで、カーレースのスケールの大きさと、その仕事がいかに大変なのかよく分かります。

そして、ドライバーが乗る運転席も見せていただきました。写真の奥にあるペダルは、左からクラッチ、ブレーキ、アクセルだそうです。普通の車もそうですね。ただ、GTのギアは、電子制御のパドルシフトになっているのでクラッチは、ほとんど出番がないんだとか。そして、ハンドルについているボタンは、それぞれに役目があるそうです。例えば、青いボタンは「ラジオ(無線)・ボタン」とか、あそこのは「ドリンクボタン」とか…。

そういうハンドルの機能をつくるのも大変だと思うし、そのボタンの機能1つ1つを覚えているドライバーもすごいと思いました。そう考えると、車を作るのにかかる値段もなっとく。



そして次に、Weds Sport ADVAN SC430 (ウェッズスポーツSC430) で、GT500に参戦している、荒 聖治(あら せいじ)選手にインタビューしました。



Q・荒選手は世界を戦ってきましたが、そこからみると、GTのおもしろさと難しさは何ですか？

A・スーパーGTは、500と300が一緒に走ります。おたがいに、尊重しあいながら走らなきゃいけないけど、攻めていかなければ、成績がだせない。そこでの駆け引きが、GTのおもしろさでもあり、難しさでもありますね。今年、GTで経験をつんだドライバーが、ル・マン24時間レースでアウディから参戦して、優勝しましたが、それが日本のレベルの高さを証明していますよね。

Q・目標にしている人は？

A・トム・クリステンセンです。ル・マン24時間レースの最多勝記録をもっているんですが、あれだけの記録をもつドライバーは、他にいません。1回ル・マンで同じチームになったことがあるんですが、チームをひきつけてまとめていく力があるんです。あのような人に、僕もなりたいな、と。

Q・ドライバーになろうと思ったキッカケは？

A・もともと車好きだったんです。そして、富士スピードウェイでやっていた、グループAのR32GT-Rのカッコよさに惚れて、こんな車に乗りたい！と。そこからカートを始めました。

Q・初レースは？

A・フォルクスワーゲンのワンメイクレースです。車は型落ちのゴルフをもらって、自分でメンテナンスやったりトラック運転したりして。ここから続けていったんですが、世界が広がりました。カートからフォーミュラーにステップアップするのがドライバーになるための定石ですが、それを無視したのがよかったんだと思います。

Q・ドライバーになるには？

A・「それになる！」という気持ちを大切にしてください。努力しつづけて、あきらめないことも大事です。あと、こういうときみたいな「出会い」も大切にね。

荒選手はFIAGT選手権やル・マン24時間レース、WTCCなどの海外でのレース経験がたくさんあります。そのような選手に質問して、1つ1つていねいに答えていただけるなんて、TGRFでしかできないような体験でした。



そしてそして、富士スピードウェイの色々な施設を見学させていただきました。

①放送室

まず、放送室です。ここでは、カメラから入ってくる映像を選びメインスタンドにあるビジョンに映しています。ちなみに、TGRF当日だけ放送されていたワンセグ局、「TGRF・TV」の映像もここで選んで放送しているそうです。



②表彰台

次に、表彰台を見学しました。控室は、ちょっと寒かったです。(冬ですからね。ドライバーさんは気にならないのかな？冬じゃないから気にならないか。)そして、ドライバーならだれもが憧れる、表彰台に！意外に順位の数字が小さい…。高さで分かるのでしょうか…。のまんなかで記念撮影。パチリ！眺めがいいです～。すごく貴重な経験だ～！



③メディアセンター

そして、メディアセンター。その名のとおり、メディアさんが集まる場所です。モニターがたくさん！250人の人の仕事ができるようになっているそうです。ちなみに、ドリンクは無料なんだとか。大変ですからね。

④計時室

ここが今回の施設見学のラスト。ここでは、1周のタイムを計る部屋です。あらかじめ車に端末をつけておいて、その端末が計時室の前を通ると、その1周のタイムが計測される…。というシステムだそうです。ちなみに、この端末は計れるスピードごとに色と値段が決まっているそうです。例えば、赤は5万円くらいとか、F1用は20万円とか…。また、このタイム計測は主に機械で行うため、その機械が壊れると…。ということでした。



富士スピードウェイの施設をいろいろ見学させていただきましたが、これだけたくさんの部屋があると、改めて、大きいレースは少しの人では成り立たない、と実感しました。

そして最後に、apr からGT300にカローラアクシオで参戦している、
新田 守男(にった もりお)選手にインタビューしました。



Q・新田選手は去年までガライヤで参戦していましたが、ガライヤとカローラの違いはありますか？

A・なんで知っているの…？えっと、ボディサイズがガライヤのほうが若干大きくて、カローラのほうが小さいんです。ボディの揺れはカローラのほうが大きいですね。揺れが大きいとコーナーでロスしちゃうので、なんとか揺れを小さくするように、チームみんなで努力しています。

Q・ドライバーになろうと思ったキツカケは？

A・子供の時から車好きだったし、親戚がレーサーだったんです。免許を取った時に、レーサーになろう！と。夢ではなくて、現実に見えたからですね。

Q・初めてのレースは？

A・えっと、ジムカーナだけど…。今みたいなレースは、富士フレッシュマンレースが初めてです。

Q・JAFGTとFIAGT3はどれくらいの差があるんですか？

A・だいたい15km～20kmくらいのストレートスピードの差があります。ストレートスピードでは不利でも、その分コーナーとかピットとかでがんばれば、今年SUGOで表彰台を獲得できたので、「やればできるんだ。」と。あ、FIAGTとJAFGTというのは
FIAGT…ヨーロッパのGT。馬力などが大きいです。
JAFGT…日本のレギュレーション(規定)で作られたGTマシン。
です。

Q・目標の人はいますか？

A・たくさんいますね…。いろんな意味でモータースポーツを大きくしようとしている、舘 信秀(たち のぶひで。トムスを作った人)さんとか、星野 一義(ほしの かずよし。日本一速い男として有名な人ですね。)さんとかですね。

新田選手は、300クラス最多勝である17勝、
最多シリーズチャンピオンである3回という記録をもっているベテラン選手です。こんなすごい選手にインタビューできるなんて、これまたトヨタだからできたことかもしれません。



今回僕は、キッズ記者体験に参加して、いろいろと貴重な体験をさせていただきました。例えば、荒選手へのインタビュー、表彰台の見学、新田選手へのインタビューなど、貴重な話がたくさん聞けました。今回改めて実感したことは、「レースは多くの人に支えられて成り立っている」ということです。なぜなら、ENEOSの時にも、「メカニックみんなで直す」ことや、荒選手へのインタビューの時の「出会いを大切にね」に、施設見学の時の「放送室」「表彰台」「メディアセンター」「計時室」などの部屋の多さ、新田選手へのインタビューのときの「チームみんなで努力して表彰台」など…。これらの話を聞くと、本当に、「レースは多くの人に支えられて成り立っている」ということを、改めて実感します。

今回、このような素晴らしいことを改めて知る機会をくださって、ありがとうございました。



東京都 中野龍太